

	社会情勢	国の動向	多摩市の動向	アンケート調査	市民ワークショップ【若者・壮年・高齢の3世代別】	主な課題
全般	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減・高齢化の進行 ○SDGs: 2030 年に向けた持続可能な開発目標の採択・貧困・環境・ジェンダー・平和・教育・持続可能な開発など 17 項目の目標を設定。 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○経済の成熟化 ○情報通信技術の進展に伴う社会変革 ○子ども・若者をめぐる諸問題の顕在化(いじめ・不登校、相対的貧困、引きこもり、居場所・・・) ○ライフステージを通じた健康づくり ○保健・医療・介護体制の構築 ○高齢者の居場所づくり ○労働・雇用環境の変化(非正規雇用の増加)、共働き世代の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育基本法改正の中で「生涯学習の理念」に関する規定を設け、教育全体の普遍的理念として生涯学習社会の実現を目指すことを明確化(H18) 	<ul style="list-style-type: none"> ○H31.1 現在高齢化率 28.7%。都内26市で類を見ないスピードで高齢化が進行 2030 年、3人に1人が高齢者に ○ニュータウンの再生 ○「健幸まちづくり」の推進と3つの重点課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 超高齢社会への挑戦 2 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり 3 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習への関心: 全体の約8割が関心あり。10 代、30 代で全体より高い。 ○生涯学習への参加状況: 参加しているのは全体の45%。20～50 歳代で3割台と低い一方、60・70 歳以上の年代で5割を超えて高い。 ○生涯学習参加の方法: 「サークルやグループなどでの活動」、「民間の教室・講座」、「本を読んで」が高い。30 代で「ウェブサイトで検索・閲覧して」が5割を超えて高い。 ○生活の中で一番困っていること(キーワード)「健康」「仕事」が上位。※10代、60代、70歳以上で「健康」、30代、40代で「子育て」、50代で「仕事」が最多。 ○生活の中で一番大事にしていること(キーワード)「健康」、「家族・家庭」が上位。※10代、20代、60代、70歳以上で「健康」、30代、40代、50代で「家族・家庭」が最多。 ○多摩市において最優先に解決されるべき地域の課題(キーワード)「高齢化」「独居」「まちづくり・活性化」が上位。 ※すべての年齢層で「高齢化」が最多。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市の目標の明確化【壮年】 <ul style="list-style-type: none"> ・指標の策定(KPI) ・市のアイデンティティの明確化 ⇒達成できていないことも包み隠さずレポートする ●生涯学習についての意識が低い【壮年】 ⇒人に教える(伝える)ことで自尊心がうまれる ●退職後の生活不安【壮年】 ⇒市民の能力活用(プロとして金銭をもらう、仕組みも視野に) ●コンテンツの問題【壮年】 ●市の活性化【壮年】 ⇒楽習=コンテンツの多様化 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒生涯学習活動への参加を妨げている原因の解消 ⇒個人や地域・社会のニーズに応じた生涯学習メニューの充実 ⇒誰もがいつでも気軽に集え、学び合える場の充実
場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○社会資本の老朽化 ○空き家、空き教室の増加 ○e-ラーニングの増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育法の改正の中で、社会教育施設の運営能力向上、専門職員の資質向上などを定める(H20) ○コミュニティ・スクールや学校支援地域本部棟の活用などを提言(H25 中教審答申) ○公立社会教育施設(博物館、図書館、公民館等)について、地方公共団体の判断により、教育委員会から首長部局への移管を可能とする(R1 第9次地方分権一括法) 	<ul style="list-style-type: none"> ○パルテノン多摩の大規模改修 ○多摩市立図書館本館の再整備 ○和田・東寺方コミュニティセンター開館 H30 	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習活動をしなかった(できなかった)理由: 20 代で「身近に%学習の場がない」が 33.3%と高い。(全体 10.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> ●資源(ヒト・モノ・カネ)の確保【若者】 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の老朽化、限られた人材、予算などの資源の活用方法 ・資源(ヒト・モノ・カネ)が減少していく中で、市を豊かにするには? ⇒市の施設や資源を最大限活用できるよう働きかける ⇒公共施設と生産学習の結びつけ(生涯学習が促進される施設へ) ●コミュニケーションのための環境づくり【壮年】 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事以外で人と知り合える場所、市民間の交流の場の充実 ・人と人とのコミュニケーション不足 ⇒インターネットを使用した e-ラーニング ⇒他人を批判、評価をしない場 ●時間・場所・費用の問題【壮年】 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事により時間がとれない、勉強する時間がない ・学習するのに費用がかかる ・学習する場所が不便(駅前) ⇒小学、中学校の活用 ●公的な場は制約多く入りにくい、行きたい時に行けない【高齢】 ⇒気軽に誰もが何時でも集え、くつろげる場 ⇒何でも話せる場、相談できる場 ⇒知識、情報を交換しながら学べる場、自分の技術や知識が生かせる場 ⇒子どもたちも含め主体的に学ぶ場 ⇒そこに行けば何か「魅力」がある経験をしてもらう場 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒多摩市の生涯学習の取り組みの認知度の向上 ⇒生涯学習活動に関する情報提供・意識啓発 ⇒誰もがつながり、学び合える環境づくり
機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者が生涯を通じて文化芸術、スポーツ等様々な機会に親しめるよう、障害者の生涯学習推進に関する基本的考え方や具体的方策をとりまとめ(H31 有識者会議報告) 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学と連携協定(トップアスリート講習会、小中学生対象スポーツ教室の開催) ○オリパラ自転車競技会場に多摩市が選定 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後参加したい生涯学習活動は「健康・スポーツに関すること」(46.7%)が最多。30 歳代で「仕事に必要な知識、技能に関すること」が3割を超えて高い(全体13.8%)。 ○生涯学習活動をしなかった(できなかった)理由「仕事や家事が忙しくて時間がない」(46.7%)が最多。20 代で8割と高い。また、年収100万円以下で「費用がかかる」が3割強と高い(全体13.8%) ○多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるために、行政がすればよいこと: 「きっかけ作り」(44.9%)と高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どうすれば市民がもっている能力を活かせるか【若者】 ⇒ダイレクトにアプローチすると一定数興味はわく人はいるかも ⇒イメージを理解するには見るのが一番 ●学校・地域での学習【高齢】 ⇒学校支援に高齢者の力活用 ●勤労世帯や子どもが地域と関わりをもち、学ぶ機会が少ない【高齢】 ●共働き世帯の地域への参加方法の工夫【高齢】 ⇒ヒト×コト×モノが交流する場を半公共の場とする ⇒地域の廃校などを市民に任せる、空き家の活用 	

	社会情勢		多摩市の動向	アンケート調査	市民ワークショップ【若者・壮年・高齢の3世代別】	主な課題
組織・担い手づくり	○地域の人と人のつながりの希薄化 ○地域コミュニティの担い手不足	○社会・経済の変化に対応できる質の高い専門職業人養成のためのあらたか高等教育機関について整理することを提言。(H28中教審 答申)	○「多摩市若者会議」の設置 (若者のまちづくりへの参画促進)		●資源(ヒト・モノ・カネ)の確保【若者】 ●地域とつながると逃げられない【若者】 ⇒市民活動、生涯学習の担い手の技能継承 ⇒生涯学習を提供してくれる人への表彰 ⇒自分が住んでいるところとして多摩市を捉え、住民と触れ合うことで地域性をもち、関わる人の成長に触れることで継続性をもたせる	
情報提供	○インターネットを通じた情報提供の拡大 ○振り込め詐欺認知件数の増加		○広報紙、HP 等での広報 ○地域デビュー手引書の発行 ○多摩ボランティア・市民活動センター(多摩ポラセン)の活動	○生涯学習をしなかった(できなかった)理由「必要な情報が入りづらい」(50.0%)が上位。(20代) ○多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるために、行政がすればよいこと:「地域や社会での活動に関する情報提供」(52.4%)が最多。 ○市の生涯学習関連施策の認知度「出前講座」「生涯学習市民バンク」「わがまち学習講座」「市民企画講座」「地域デビュー手引書」いずれも「知らなかった」が8割台。	●生涯学習について認知のない市民への情報発信方法【若者】 ●生涯学習のイメージがわからない、メリットがイメージできない【若者】 ⇒わかりやすいメリットの発信、ライフプランとリンクする形での発信。 ⇒学びを通じた人との出会い ⇒生涯学習のモデルや具体的事例をまとめたものをつくり、より生涯学習に具体性を ⇒ターゲットを定めた発信方法を考える ●広報活動・情報発信強化【壮年】 ・市の情報発信がうまくいかない ・情報不足(興味がないことも含む) ⇒【(世代のニーズ等に合わせた)情報発信】 ・インターネット、SNS 活用 ・市のホームページの充実、メール配信 ・高齢者が集まる場の活用	
共生社会への取組	○障害者手帳所持者数の増加 ○外国人人口の増加・多様化	○「第3期教育振興基本計画」の中で、4つの具体的目標として ①「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」 ②「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」 ③「職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学びなおしの推進」 ④「障害者の生涯学習の推進」が掲げられる(H30)	○外国籍市民の増加・多様化の進展		●仕事、育児、子育てをしている中での生涯学習への関わり方【若者】 ⇒若い人も教える側に回る【若者】 ●障がいのある人がどのように生涯学習に関われるか【壮年】 ⇒障がいのある人・若い人も教える側に回る(パラスポーツの体験・講習、交流機会) ●グローバル化に対応できる街【壮年】 ⇒異文化交流の団体との連携 ⇒外国人の参画→教え手としても教えられ手としても ●学校とか地域になかなか関わりがもてない【高齢】 ●不登校、ひきこもり問題も地域で学びたい【高齢】 ⇒SDGs の授業などに地域の人も参加 ⇒児童館、学童クラブや発達障がい放課後教室はあるが、みんなが集える場を	